





# 下水道部 成果報告

下水道部長 宮下和彦

## 部局達成度

			
-	9	-	2

## 総括

公共用水域の水質を保全するため、汚水処理の未普及地区解消に向けて公共下水道の計画的な整備と浄化槽の設置促進に取り組み、汚水処理施設の普及拡大を図りました。

一方、浸水常襲地区においては、雨水対策基本計画に基づくハード整備とソフト対策に取り組むとともに、下水管路やポンプ場、処理場等、下水道施設の長寿命化と耐震化、並びに、適正な維持管理を行い、都市型浸水被害の軽減と災害に強い社会基盤施設の整備に取り組みました。

また、本年も民間事業者と協力して下水道BCP訓練を実施することで、災害時の対応力強化に取り組みました。

更に、将来にわたって安定的かつ持続的に下水道サービスを提供するため、経営戦略のフォローアップによる検証と評価を行い、公表するとともに、改定した下水道使用料の周知に努めました。

今後も適正な工事の執行と施工及び品質の管理に努めながら、計画的に下水道施設の整備や改築・更新を行い、経営戦略に基づいた下水道事業の健全経営に取り組みます。

## 組織目標ごとの達成状況

- 公共用水域の水質を保全するため、公共下水道の整備や、浄化槽の設置促進などの事業を計画的に進め、汚水処理施設の普及拡大を図ります

公共下水道については、森田北東部土地区画整理事業区域、中藤島、円山、東藤島、社南、文殊、麻生津、清明、六条、東郷、一乗地区等において、約29.6kmの汚水管を整備しました。

また、浄化槽区域における合併処理浄化槽の設置促進にも取り組みました。

その結果、目標の人口普及率を達成することができました。

引き続き、効率的な事業の推進やコスト縮減等に努め、汚水処理施設の計画的な普及拡大に取り組みます。

- ・安全で快適な生活環境を支えるため、下水道施設の適切な維持管理に努めるとともに、雨水対策事業や、施設の改築更新、長寿命化、耐震化を計画的に進めます。また、災害時における対応力の強化に努めます

雨水対策事業については、足羽地区における明里バイパス幹線や足羽3丁目枝線バイパス工事が10月末までに完成し、これまでの整備済みバイパス管と併せて、1,600m<sup>3</sup>の雨水貯留能力を確保できたことにより、浸水被害の軽減に寄与することができました。

また、雨水対策のソフト事業については、ホームページや市政広報、公民館まつりなどのイベントにおいて周知を図り、浸水防除施設の普及促進に努めました。

下水道管の長寿命化及び耐震化については、計画どおり目標を達成することができ、加茂河原ポンプ場更新に伴う用地取得も目標どおり12月に完了しました。

しかし、乾徳ポンプ場の長寿命化工事において、内部部品の劣化が工場での分解の段階で新たに発見されたため、工期を延長せざるを得ず、目標を達成することができませんでした。

繰り越した工事については、確実な工程管理によって早期完成に努めるとともに、来年度以降は、早期の劣化箇所の把握による工程の見直しが可能か検討します。

ストックマネジメント計画の策定については、目標とした作業工程を完了することができました。引き続き、来年度中の計画策定を目指します。

福井市下水道業務継続計画に基づき実施してきた職員防災訓練については、今回、処理場・ポンプ場の運転管理業務を請負っている包括委託業者との合同訓練とすることで、連携強化を図り、より実践的なものとなりました。

今後も、PDCAにより内容を見直しながら継続的に実施し、災害時の対応力強化に努めます。

- ・一層の経営健全化を図るため、福井市下水道事業経営戦略の着実な進捗と下水道使用料の適正な徴収に取り組むとともに、下水道事業の見える化と使用料改定の周知に努めます

経営戦略については、フォローアップにより事業進捗や経営状況を的確に把握するとともに、検証と評価を行うことで着実な推進に取り組みました。

また、今年度の過年度料金収納率も、目標を達成することができました。

下水道事業の見える化については、パネル展やPRイベントの開催、下水道施設の見学、下水道広報誌「下水のミカタ」等を通して、下水道事業の役割や重要性についての情報を発信しました。

平成31年1月1日から施行した使用料改定については、広報誌やチラシの全戸配布等により市民への周知に努めました。


さらに、「マンホールカード」は一乗地区限定のカードを新たに追加し、交付枚数も今年度だけで、3,000枚を超えた他、使用済みマンホール蓋の販売も試行し、市外、県外の方に好評を博しました。

- ・適切で合理的な公共事業推進のため、監督職員の施工体制点検を通して公共工事の品質確保に努めるとともに、各種研修会等を通して職員の技術力向上を図ります


工事監察パトロールを通じ、工事現場の施工体制、技術者の適正配置、下請等に関する各関連法規の遵守状況等の点検を行い、各工事の適正な施工管理と品質確保に努めました。


また、部内各所属が中心となり多様なテーマを設けて研修会を開催し、事務系、技術系を問わず、職員の技術力向上を図りました。


・公共用水域の水質を保全するため、公共下水道の整備や、浄化槽の設置促進などの事業を計画的に進め、汚水処理施設の普及拡大を図ります


1	未普及地区における汚水処理施設の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	投資と財源との均衡を図りながら計画的に汚水処理施設の普及拡大を進めます。		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○公共下水道普及拡大工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度繰越工事 : 1 件中 1 件完成</li> <li>・平成 29 年度繰越工事 : 33 件中 33 件完成</li> <li>・平成 30 年度発注工事 : 114 件発注、うち 96 件完成</li> </ul> <p>○主な整備地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独公共下水道 <ul style="list-style-type: none"> <li>[ 橋北 ] 中藤島地区 ( 新田本町、中藤新保町 )、円山地区 ( 北今泉町、東今泉町 ) 東藤島地区 ( 上中町、大和田町、原目町、藤島町、林町、北野下町 )</li> <li>[ 橋南 ] 社南地区 ( 南江守町、南居町 )、文殊地区 ( 上細江町、下細江町 ) 麻生津地区 ( 上江尻町、今市町、浅水町、森行町 )、清明地区 ( 杉谷町 ) 六条地区 ( 上六条町、下六条町、上筋生田町、下筋生田町、天王町 ) 東郷地区 ( 脇三ヶ町、円成寺町、下東郷町、栃泉町、南山町 ) 一乗地区 ( 安波賀中島町、安波賀町 )</li> </ul> </li> <li>・流域関連公共下水道 森田北東部土地区画整理事業施行区域 ( 上野本町、森田新保町、漆原町、河合寄安町、栗森町 )</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
公共下水道区域内の人口普及率 : 95.2% ( 29 年度 ) 95.8% ( 30 年度 )		公共下水道区域内の人口普及率 : 95.8% ( 見込み )	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>公共下水道については、森田北東部土地区画整理事業区域、中藤島、円山、東藤島、社南、文殊、麻生津、清明、六条、東郷、一乗地区等において、約 29.6 k mの汚水管を整備したことにより、目標の人口普及率を達成することができました。</p> <p>引き続き、効率的な事業の推進やコスト縮減等に努め、計画的な普及拡大に取り組みます。</p>		

安全で快適な生活環境を支えるため、下水道施設の適切な維持管理に努めるとともに、雨水対策事業や、施設の改築更新、長寿命化、耐震化を計画的に進めます。また、災害時における対応力の強化に努めます


2	浸水常襲地区の雨水対策事業推進	達成度																					
<b>実 行 内 容</b>																							
<b>目 標</b>	<p>浸水常襲地区の被害軽減を図るため、福井市下水道雨水対策基本計画に基づき、バイパス管などの整備とともに浸水防除施設の普及促進を図ります。</p> <p>また、下水道革新的技術実証事業で整備した降雨・浸水予測システムについては、実際の降雨状況と予測結果を比較しながら予測精度の向上に取り組みます。</p>																						
<b>取 組 内 容</b>	<p>ハード対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明里バイパス管の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>1500 明里バイパス幹線工事（H29 繰越工事） 5月完成</li> <li>1000 足羽3丁目枝線バイパス工事（H29 繰越工事） 10月完成</li> <li>1650 明里バイパス幹線工事 施工中（H31年8月末完成予定）</li> </ul> </li> <li>ソフト対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水防除施設のイベントでのPR <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">6回</td> <td style="width: 15%;">7月8日</td> <td style="width: 15%;">あめゆき Café（足羽公民館）</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月25日</td> <td>立矢地区模擬訓練（足羽公民館）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月1日</td> <td>下水道わくわく広場</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月21日</td> <td>足羽公民館まつり</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月28日</td> <td>豊公民館まつり、木田公民館まつり</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul> </li> <li>降雨・浸水予測システムの精度向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市域レーダーシステム、短時間降雨予測モデル、及び高速流出解析システムの観測データの蓄積と評価検証を実施（7月5日～7日の降雨、時間最大21.0mm、日最大106.5mm）</li> </ul> </li> </ul>			6回	7月8日	あめゆき Café（足羽公民館）			8月25日	立矢地区模擬訓練（足羽公民館）			9月1日	下水道わくわく広場			10月21日	足羽公民館まつり			10月28日	豊公民館まつり、木田公民館まつり	
6回	7月8日	あめゆき Café（足羽公民館）																					
	8月25日	立矢地区模擬訓練（足羽公民館）																					
	9月1日	下水道わくわく広場																					
	10月21日	足羽公民館まつり																					
	10月28日	豊公民館まつり、木田公民館まつり																					
<b>数 値 指 標</b>																							
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>																					
下水道による都市浸水対策達成率		下水道による都市浸水対策達成率																					
： 84.2%		： 84.2%																					
明里バイパス管等の整備率		明里バイパス管等の整備率																					
： 49.3%（29年度） 75.2%（30年度）		： 75.2%																					
浸水防除施設のイベントでのPR		浸水防除施設のイベントでのPR																					
： 4回		： 6回																					
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>ハード対策事業については、足羽地区における 1500 明里バイパス幹線工事（足羽2丁目地係）や 1000 足羽3丁目枝線バイパス工事（足羽小学校西側）が10月末までに完成し、これまでの整備済みバイパス管（貯留量約900m<sup>3</sup>）と併せ約1,600m<sup>3</sup>の雨水貯留能力を確保できたことにより、浸水被害の軽減に一定の効果を得ることができました。今後は、現在施工中の 1650 明里バイパス幹線工事の確実な工程管理に努め、工期内完成を目指します。</p> <p>ソフト対策事業については、29年度から運用を開始した雨水タンク及び止水板の設置にかかる補助制度について、ホームページや市政広報、下水道わくわく広場や公民館まつりなどのイベントにおいて周知を図りました。今後も更に、浸水常襲地区の住民に対しイベント等でのPRを行い、浸水防除施設の普及促進を行っていきます。</p> <p>降雨・浸水予測システムの精度向上の取り組みについては、10月末まで観測データの蓄積を行い、その後、降雨と浸水の予測精度についての評価検証を行いました。システム整備後は1時間に30mmを超えるような降雨が無かったこともあり、この部分の十分な予測精度の検証が行えませんでした。今後も引き続き、実際の降雨状況と予測結果を比較しながら降雨・浸水予測システムの精度向上に努めます。</p>																						

3	ポンプ場の更新整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	雨水対策の強化や施設の耐震化を図るため、老朽化したポンプ場の更新整備を行います。		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>加茂河原ポンプ場の更新用地取得</p> <p>[案件 : 土地・共同住宅] (H29年度 土地売買、移転補償契約済 土地所有権移転登記完了)</p> <p>4~8月 全居住者5名と移転補償契約を締結</p> <p>7月 代替共同住宅の建築工事契約</p> <p>10月 居住者の移転完了</p> <p>11月 代替共同住宅の建築工事完成</p> <p>12月 共同住宅の取壊し完了 用地の引渡し完了</p> <p>[案件 : 土地・専用住宅]</p> <p>5月 補償物件調査を実施</p> <p>7月 居住者と移転補償契約を締結</p> <p>8月 所有者と土地売買契約、移転補償契約を締結</p> <p>9月 土地の所有権移転登記完了</p> <p>12月 居住者の移転完了 専用住宅の取壊し完了 用地の引渡し完了</p> <p>[案件 : 土地]</p> <p>8月 所有者と売買契約を締結 所有権移転登記完了</p> <p>12月 居住者(案件 )の移転完了 用地の引渡し完了</p> <p>更新工事の関係機関協議</p> <p>10月 県河川課と河川占用に係る協議</p> <p>11月 建築指導課と計画通知に係る協議</p> <p>1月 建築指導課に計画通知を提出</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
加茂河原ポンプ場更新に伴う用地取得完了 : 12月		加茂河原ポンプ場更新に伴う用地取得完了 : 12月	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>加茂河原ポンプ場更新に伴う用地取得については、地権者等と協議を重ね、目標どおり12月に完了しました。</p> <p>新年度は、平成35年の供用開始を目指して計画的な工事の工程管理に努めていきます。</p>		

4	下水道施設長寿命化への取組	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>下水道の機能を保全するため、計画的な長寿命化に取り組みます。  また、下水道施設全体の状態を把握しながら、適切な維持管理や効率的な改築更新を行うため、ストックマネジメント計画の策定に取り組みます。</p>		
取 組 内 容	<p>下水道管の長寿命化  ・ 下水管更生工事（春山2丁目外16件） 延長 2.25km [完 成]  下水管改築更新工事（大宮2丁目外1件） 延長 0.17km 計 2.42km</p> <p>下水道施設の長寿命化  ・ 日野川浄化センター  水処理設備：汚泥ポンプ更新工事 [完 成]  汚泥処理設備：脱硫塔・余剰ガス燃焼装置更新機械設備工事 [完 成]  電気計装設備：脱硫塔・余剰ガス燃焼装置電気設備工事 [完 成]  砂ろ過設備動力制御盤更新工事 [完 成]</p> <p>・ 境浄化センター  水処理設備：No.3 2 終沈汚泥掻寄機長寿命化工事 [完 成]  No.2 終沈汚泥掻寄機長寿命化工事 [完 成]</p> <p>・ 乾徳ポンプ場  沈砂池設備：1号雨水除塵機長寿命化工事 [完 成]  ポンプ設備：2号汚水ポンプ長寿命化工事 [繰 越]</p> <p>ストックマネジメント計画の策定  管路施設：管路の点検・調査計画策定 [完 成]  処理場・ポンプ場施設：処理場・ポンプ場のデータベース作成 [完 成]</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標	結 果 ・ 成 果		
<p>下水道管の長寿命化  下水道管更生・改築更新工事  ：橋北、西部、北部、東部排水区等 延長 2.4 km</p> <p>下水道施設の長寿命化  日野川浄化センター：水処理設備、汚泥処理設備、  電気計装設備  境浄化センター：水処理設備  乾徳ポンプ場：沈砂池設備  ポンプ設備</p> <p>ストックマネジメント計画の策定  管路施設：管路の点検・調査計画策定 12月  処理場・ポンプ場施設  ：処理場・ポンプ場データベース作成 3月</p>	<p>下水道管の長寿命化  下水道管更生・改築更新工事  ：橋北、西部、北部、東部排水区等 延長 2.4 km</p> <p>下水道施設の長寿命化  日野川浄化センター：水処理設備、汚泥処理設備、  電気計装設備  境浄化センター：水処理設備  乾徳ポンプ場：沈砂池設備  ポンプ設備（繰越）</p> <p>ストックマネジメント計画の策定  管路施設：管路の点検・調査計画策定 12月  処理場・ポンプ場施設  ：処理場・ポンプ場のデータベース作成 3月</p>		
成 果 ・ 課 題	<p>下水道管の長寿命化については、目標を達成することができました。  一方、下水道施設の長寿命化については、乾徳ポンプ場の長寿命化工事において、工場での分解の段階で新たな内部部品の劣化が発見され、工期を延期せざるを得ず目標を達成することができませんでした。工期延期期間中は予備機の適正な運転管理に努め、ポンプ場の機能を確保します。  ストックマネジメント計画の策定については、目標としていた作業工程は完了しました。引き続き、施設のリスク評価や改築・更新シナリオの作成等の作業を進め、来年度中のストックマネジメント計画策定を目指します。</p>		


5	下水管路の耐震化への取組	達成度									
<b>実 行 内 容</b>											
<b>目 標</b>	地震時においても下水道の流下機能を確保するため、管路の耐震化を進めます。										
	<b>取 組 内 容</b>	<p>下水管路耐震化の取組状況</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">[ 完 成 ]</td> <td style="width: 55%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 29.55km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.36km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 2.42km</li> </ul> </td> <td style="width: 10%; text-align: right;">} 29.91km</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">計 32.33km</td> </tr> <tr> <td>[ 繰 越 ]</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 4.59km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.35km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 0.19km</li> </ul> </td> <td style="text-align: right;">} 4.94km</td> <td style="text-align: right;">計 5.13km</td> </tr> </table> <p>下水管路の耐震化率 47.3%</p> $\frac{(\text{H29年度末 耐震化延長}) + (\text{H30年度 耐震化延長})}{(\text{H29年度末 管路延長}) + (\text{H30年度 増加延長})} = \frac{682.54 + 32.33}{1482.99 + 29.91} = 47.3\%$			[ 完 成 ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 29.55km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.36km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 2.42km</li> </ul>	} 29.91km	計 32.33km	[ 繰 越 ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 4.59km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.35km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 0.19km</li> </ul>	} 4.94km
[ 完 成 ]		<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 29.55km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.36km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 2.42km</li> </ul>	} 29.91km	計 32.33km							
[ 繰 越 ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及拡大工事 延長 4.59km</li> <li>・雨水対策工事 延長 0.35km</li> <li>・管路改築工事（管更生、更新） 延長 0.19km</li> </ul>	} 4.94km	計 5.13km								
<b>数 値 指 標</b>											
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>									
下水管路の耐震化率 : 46.0% (29年度)    47.3% (30年度)		下水管路の耐震化率 : 47.3%									
<b>成 果 ・ 課 題</b>	下水管路の耐震化については普及拡大及び管路改築を進め、目標を達成することができました。引き続き、効率的な事業の推進やコスト縮減等に努め、計画的な耐震化率の向上に取り組みます。										





6	災害対応訓練の実施	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	平成 26 年度に策定した福井市下水道業務継続計画に基づき実施してきた職員防災訓練をより実践的なものとするため、民間事業者の協力のもと、合同訓練を実施します。		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>下水道施設運転維持管理業務包括委託業者との合同訓練の実施</p> <p>日時：平成 30 年 10 月 31 日（水）13:00～15:00  場所：境浄化センター</p> <p>内容： 事前講習 中消防署による土のう製作・設置講習  初動対応訓練 平日勤務中における災害発生時の初動対応の確認  電話連絡訓練 包括委託業者 施設管理センター班 下水道災害対策本部  実地訓練 内容：土のう設置訓練、排水ポンプ・排水ホース・発電機の設置</p> <p>参加者：包括委託業者（伸海・ウォーターエージェンシー共同事業体） 10 名  下水道部職員 22 名</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
民間事業者との合同防災訓練の実施 : 1 回		民間事業者との合同防災訓練の実施 : 1 回	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>大規模な地震や浸水等の災害が発生した場合の施設の被害状況調査や破損箇所の応急復旧等には、豊富な現場経験を有する民間業者の協力が不可欠です。</p> <p>今回の職員防災訓練は、処理場・ポンプ場の運転管理業務を請負っている包括委託業者との合同訓練として実施しました。</p> <p>訓練では、下水道業務継続計画に基づく初動対応を確認するとともに、下水道部職員と包括委託業者の担当者間での連絡訓練や、被害状況の調査から応急復旧までの実地訓練等を行なったことで、実際に災害が発生した際の連携強化や、円滑な下水道の復旧等に寄与するものとなりました。</p> <p>今後も、より実践的な訓練とするため、様々な状況を想定した合同訓練を実施し、関係団体との連携を図っていきます。</p>		





- 一層の経営健全化を図るため、福井市下水道事業経営戦略の着実な進捗と下水道使用料の適正な徴収に取り組むとともに、下水道事業の見える化と使用料改定の周知に努めます

7	下水道事業の安定経営	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>平成 28 年度に策定した福井市下水道事業経営戦略を着実に推進するため、下水道事業の経営状況を的確に把握するとともに、検証と評価を行い、必要な見直し等を図っていきます。</p> <p>また、事業を効率的に進めるため、施設運転維持管理業務包括委託を 31 年度以降も継続して実施します。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>経営戦略のフォローアップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営指標の検証等による経営状況の把握</li> <li>・ 経営基盤強化策等の実施状況の検証</li> <li>・ 投資事業の進捗状況の確認</li> <li>・ 平成 29 年度末評価のとりまとめ及び公表</li> </ul> <p>福井市下水道施設運転維持管理業務包括委託の新規契約締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約期間：平成 31 年から 35 年度の 5 年間</li> <li>・ 契約日：平成 30 年 11 月 29 日</li> <li>・ 施設数：処理場、ポンプ場など全 251 施設</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
経費回収率 : 100.0% 経営戦略の H29 年度末評価のとりまとめ : 9 月 施設運転維持管理業務包括委託 : 契約 12 月		経費回収率 : 99.8% (見込み) 経営戦略の H29 年度末評価のとりまとめ : 9 月 施設運転維持管理業務包括委託 : 契約 11 月	
<b>成 果</b>	<p>維持管理費は、汚泥処分費の抑制などにより経費の削減に努めてまいりましたが、管渠修繕の増加等により前年度比 4.9%の増となる一方、資本費（減価償却費 + 支払利息）は、支払利息の減少により前年度比 2.0%の減となる見込みです。これらを合わせた汚水処理に要する経費は、前年度より 1.0%の増となります。</p> <p>一方、使用料収益は、天候の影響等により前年度比 0.5%の減となり、30 年度の経費回収率は前年度比 1.5%減 ( ) の 99.8%となる見込みです。</p> <p>下水道事業の継続には、この他に施設の建設に要する費用や、企業債償還に充てる資金が必要であり、今後この資金は不足することが見込まれています。</p> <p>このため、毎年度、経営戦略のフォローアップにより、事業進捗や経営状況を検証・評価し、その状況を的確に把握することで、下水道事業の安定経営を図り、市民への安全・安心な下水道サービスを提供していきます。</p> <p>施設運転維持管理業務包括委託について、新年度からより一層の業務の効率化に努めるとともに、民間事業者としての創意工夫を反映した維持管理が図られるよう指導していきます。</p>		
<b>課 題</b>	<p>平成 29 年度経費回収率 : 101.3% (大雪の影響により使用料収益が増収となったため)</p>		

8	下水道事業の見える化を推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>日頃は目にする機会が少ない下水道への関心を高め、その役割や重要性について広く理解してもらうため、PRイベントや施設見学を実施するとともに、広報誌やホームページ、フェイスブックなどによって、情報の発信を強化します。</p>		
	<p>平成31年1月1日に施行する下水道使用料改定については、広報誌「下水のミカタ」の活用や水道料金改定チラシの全戸配布などにより、市民の理解が得られるよう周知に努めます。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>市内小中学校など施設見学  4月～3月 <span style="float: right;">1,985人</span>  スウェッジガーデン等利用者  4月～11月 <span style="float: right;">3,606人</span>  下水道啓発事業  ・福井市上下水道展（7/29開催予定、台風12号の影響により中止） <span style="float: right;">118人</span>  上下水道パネル展のみを総合ボランティアセンターで実施（7/31～8/26）  ・上下水道わくわく広場 <span style="float: right;">298人</span>  7月に中止となった上下水道展の一部を新栄テラスにて開催（9/1：企業局共催）</p> <p>情報発信  ・下水道広報誌「下水のミカタ」発刊（7月、11月、3月）  ・ホームページ、フェイスブックの更新を随時</p> <p>使用料改定の周知  ・広報誌「下水のミカタ」に掲載（7月、11月、3月）  ・出前講座の開催（8月：2回）  ・住民説明会の開催（10月：8回）  ・改定内容の周知チラシを検針時配布（8月、3月）  ・CATVでの周知（2月）</p> <p>【参考】 マンホールカード配布  ・フェニックス柄：H28.8.1配布開始 H31.2未配布累計数3,404枚  （内訳 市内：752 県内：378 県外：1,860）  （H30年度配布数1,252枚 内訳 市内：142 県内：91 県外：879）  ・一乗地区限定柄：H30.8.11配布開始 H31.2未配布累計数1,973枚  （内訳 市内：239 県内：205 県外：1,181）</p> <p>使用済みマンホール蓋の販売 不用マンホール鉄蓋10枚を、希望者に抽選で売却  応募総数191通（内訳 市内：82名、県内：62名、県外：47名）</p> <p>広報等による他機関へのPR活動  ・広報PR及び市内小学校、公民館へ施設見学の誘致</p>		
	<b>数 値 指 標</b>		
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
PRイベント及び施設等の来場者数 ： 5,947人（29年度） 6,000人（30年度）		PRイベント及び施設等の来場者数 ： 6,007人	
下水道広報誌の発刊： 3回		下水道広報誌の発刊： 3回	
<b>成 果</b>  <b>課 題</b>	<p>市民に下水道への関心を高めてもらうことを目的に、広報誌の発刊や、市内の小中学校や公民館に対する施設見学の案内をしました。また、計画していた上下水道展が台風により中止となったため、総合ボランティアセンターにてパネル展を行い、代替イベントとして新栄テラスでは、上下水道わくわく広場を開催し、下水道事業の啓発に努めました。</p>		
	<p>その結果、各地区の公民館や各種団体にPRする機会が増加し、目標を達成することができました。また、下水道使用料改定については、広報誌「下水のミカタ」や使用料改定チラシの全戸配布、出前講座や住民説明会など、機会を捉え市民の理解が得られるよう周知に努めました。今後も引き続き、下水道事業の啓発に積極的に取り組みます。</p>		

9	下水道使用料滞納金の徴収強化	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	下水道使用料については、水道料金と同時に徴収するシステムとなっているため、企業局等と連携を図りながら、過年度使用料収納率の維持・向上に取り組みます。		
<b>取 組 内 容</b>	<p>委託業者の統括責任者及び滞納整理担当者と当室の滞納整理担当者による協議の場を持ち、過年度下水道使用料の目標収納率と滞納者の個人案件について情報共有している。</p> <p>(4月から2月の滞納整理実績)</p> <p>各戸訪問 1,784件 電話による交渉 4,529件 給水停止処分 780件  井戸水の下水道使用料 電話催告 20件 各戸訪問 19件</p> <p>毎月、企業局から徴収額の報告を受け、進捗状況を把握  委託業者の業務進捗状況の確認を随時行い、引き続き滞納整理を実施</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
過年度使用料収納率 : 99.7%以上		過年度使用料収納率 : 99.7%以上 (見込み)	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>目標収納率 99.7%を上回ることが出来ました。</p> <p>(過年度分《平成 25 年度から平成 29 年度》の料金収納合計額 19,456,210 千円 / 料金調定合計額 19,506,960 千円)</p> <p>今後も企業局と連携を図りながら、過年度料金収納率の維持・向上に取り組みます。</p>		

10	公共工事の品質確保	達成度		
<b>実 行 内 容</b>				
<b>目 標</b>	適正な工事執行と品質確保を図るため、工事現場の施工体制、技術者の適正配置、下請負等に関する各関連法規の遵守状況を点検します。			
	<b>取 組 内 容</b>	工事監察パトロール実施結果（全6回） ・工事監察指摘率 4.2%（指摘件数1件 / 監察件数24件）		
課 名		是正指摘件数（件） A	監察を受けた件数（件） B	指摘率（%） (A/B) × 100
下水管路課 (雨水対策室)		1	17	5.9
下水施設課		0	7	0
計	1	24	4.2	
<b>数 値 指 標</b>				
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>		
工事監察指摘率 : 23.3%（29年度） 10.0%未満（30年度）		工事監察指摘率 : 4.2%		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<p>公共工事の品質確保については、監督職員等による現場巡視を実施し、施工体制の点検及び現場代理人への指導を徹底したことにより、目標を達成しました。</p> <p>今後も、請負者への指導の徹底と、監督職員等による現場巡視、及び工事関係書に関する確認体制の強化に努め、より適正な工事執行と品質確保を図ります。</p>			

11	職員の技術力向上	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	設計や測量などの実務に触れる機会を設けるとともに、各種技術研修会を開催し、職員のスキルアップを図ります。		
	<b>取 組 内 容</b>	<p>第1回技術研修会を開催（4月19日）          テーマ：浸水対策の強化と専門技術の継承について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ等を実際に稼働させるなどの機器の稼働操作を実技指導</li> <li>・河川樋門等の機能及び操作の要領を指導</li> <li>・再任用職員及び委託業者からの技術継承講義</li> </ul>	
<p>第2回技術研修会を開催（6月25日）          テーマ：お客様サービスの向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務系職員を含めた、管路布設、取付管・汚水桝設置工事、宅内排水設備等の基礎的な知識を習得</li> </ul>			
<p>第3回技術研修会を開催（8月27日）          テーマ：特殊工事の設計と管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杭基礎工事（中掘り杭、プレボーリング杭）の技術の習得や施工時の注意点を講義</li> <li>・プレボーリング杭の施工業者による現場説明会における施工管理、出来形管理の指導</li> </ul>			
<p>第4回技術研修会を開催（10月10日）          テーマ：災害時のトイレ問題と災害対策の強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難所トイレ問題に係る、災害対応経験業者による講演</li> <li>・災害対應用トイレの説明および整備計画についての講義</li> <li>・下水道部職員及び業者間で、災害時における下水道施設の機能確保に必要な技術情報の共有及び連携強化を図る為、被害を想定した意見交換会（ワークショップ）を開催</li> </ul>			
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
各種技術研修会の開催 ： 3回（29年度）      4回（30年度）		各種技術研修会の開催 ： 4回	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	下水道部の各所属が中心となって4回の技術研修会を開催し、事務系・技術系の職種を問わず下水道部全職員のスキルアップに取り組みました。		
	<p>そのうち、第4回のテーマでは、下水道部職員だけでなく、下水道施設の維持補修業者も参加した研修会とし、職員と業者双方の意見交換等を通じて、災害対応力の強化に取り組みました。</p> <p>今後とも、適切な時期に適切なテーマの研修会を毎年継続して開催することで、職員のスキルアップと技術の継承を図ります。</p>		

